



◎ 案内させていただきましたのは、  
京都酒造組合  
佐々木勝也組合理事長  
「洛中の蔵元の灯を消すな。」の熱い思いで京都酒造組合の三社とも特定名称酒を中心に伝統的醸造法を用いた本来の造り方で「日本酒は本当に美味しいね。」と言っていただけのような日本酒を提供し続けていくことを目指しています。京料理に京の酒、組合員少数ながら、日本民族の誇りである旨き本来の酒をここ京都より発信しようと各酒造、情熱を持って取り組んでいます。

# 酒の京 酒コラム Vol.7

**Q1** 日本酒のはてな  
日本に酒が  
登場したのは  
いつ頃ですか？

**A** 少なくとも三千年以上前に、中国から九州に稲作技術が伝わったと明らかになっています。最も古い水田は約二千五百年ものが岡山で発見されています。米を原料とした酒造りの前は、「ガマズミ」とか「カジノキ」等の「液果酒」。そして雑穀・木実類からの「くちかみ酒」等が造られていました。古代の酒は、すべて濁酒（にごりざけ）でした。本格的な酒造りは朝廷用に使われたもので、平安朝時代には酒造係という役職がありました。

**Q2** 日本酒のはてな  
日本酒はどのよう  
に飲まれていたの  
でしょうか？

**A** 古来から酒は神からの授かり物で、神への神聖な捧げ物として作られてきました。一方、中世までの貴族社会では、宴（うたげ）の酒が加わり、さらに武士社会では出陣の壮行の宴で清めの酒を飲むことが広まるようになりまし。平和で文化が発達する江戸時代には、花柳街も発達し、一部の裕福な層では飲酒が日常化しました。しかし、ここまでは一般の人が酒を飲む機会が多かったわけではありませ。日本人が日常的に酒を買って飲む習慣が広まったのは明治中期からといわれています。鹿鳴館文化を中心に公的な宴が日本中で繰り広げられ、さらに日清、日露戦争での出兵や凱旋ごとに祝宴がつきものになって、酒が振る舞われました。ただ、そうした宴は食事を楽しみながら酒を嗜むスタイルではなく、ひたすら氣勢をあげる無礼講的な飲まれ方だったようです。

**Q3** 日本酒のはてな  
京都のお酒は  
どのように発達  
したのでしょ  
うか？

**A** 五世紀頃、朝鮮から渡来した秦人は太秦の興隆寺一帯や伏見稲荷神社一帯に拠点を築き、養蚕・織物・陶業などの他、大陸伝来の良質な酒も造り始めました。日本第一醸造祖神として有名な松尾大社は秦氏が松尾の神を氏族の総氏神と仰いだのがルーツであるといわれています。平安時代に大内裏に朝廷の酒をつくる造酒司（さけのつかさ）が設けられた時、実務を担当したのも秦氏一族でした。京都の酒造りが最も栄えたのは室町時代です。室町時代には京洛中だけで実に三五〇軒、明治時代で一〇四軒、大正時代で八〇軒、昭和31年には三一軒もありました。それが時代の変遷と共に清酒業界の厳しい環境の中で、減少の一途をたどり、平成14年度、遂に二社になりました。平成17年に市町村合併で京北町の羽田酒造（有）が加入し、弊社と松井酒造（株）の三社で京都酒造組合を運営しております。

【参考文献・出典】栗山一秀「世界の酒—その種類と醸造法、歴史と本質と効用—」、神崎宣武「酒の日本文化」、松尾大社ホームページ

今回ご紹介するのはお酒の歴史。米とともに発達した日本酒の歴史をお話ししたいと思います。日本酒の製法と管理は世界で類を見ないほど複雑で巧妙であると言われていています。その独自の技法がどのような歴史的背景を持って進化したのか？簡単ですが、流れを追ってみたいと思います。

## 知っているとおもしろい お酒の豆辞典

お酒の歴史は人類の歴史といっても過言は無いでしょう。人の歴史に大きく関わったお酒は文化を変えていきました。

**◆松尾大社**  
太秦や嵐山一帯の開拓に当たった秦氏が大山咋神のご神威を仰いだのが始まり。農業が進むと秦氏を中心に絹産業などの緒産業が発展、酒造は秦氏の特技でした。松尾大社を氏族の祭神とした秦氏が、酒造りと関わり深かったことから、松尾大社は酒造の神様として崇められました。室町時代末期以降、「日本第一酒造神」と仰がれた由来はここにあります。

**◆諸白（もろはく）**  
麴米と掛米（蒸米）の両方に精白米を用いる製法のこと。平安時代に奈良の大寺院で製造されていた僧坊酒。その流れを継ぐ奈良の「南都諸白（なんともろはく）」は今日の純米大吟醸酒のように高級清酒の名声を欲しいままにした時期がありました。

**◆濁酒（どぶろく）**  
発酵させただけの白く濁った酒。もろみ酒、濁り酒（にごりざけ）ともいう。炊いた米に、米こうじや酒粕に残る酵母などを加えて発酵させて造られます。



## 1960年代頃の佐々木酒造



書かれたのは三田村宗二氏（1938～1996）さんです。1986年に西陣の町家を描き出されてから、既に約1000点の作品を完成させ、平安建都1200年に当たる1994年までには京都市内全域の建物1200件を描くべく努力を続けられていました。



豊臣秀吉が嗜んだであろう名水（銀明水）で造られた京の酒をお試しください。

日本酒ができるまで